

■ 編集委員

海老原康博（編集委員長）

秋岡 祐子 片桐 岳信 小林 国彦 千田みゆき 名越 澄子

堀江公仁子 町田 早苗 Chad L Godfrey（五十音順）

■ 編集後記

令和4年度も終わろうとしています。今年度を振り返ると、明るい話題としてはFIFAワールドカップでサッカー強豪国を撃破した日本代表の活躍が挙げられると思います。この3月に開幕するワールド・ベースボール・クラシックでの日本代表の活躍はどうなっているでしょう。埼玉医大においては、駅伝部のニューイヤー駅伝2023出場や奥武蔵駅伝2連覇と明るい話題がありました。しかし、今年度はウクライナ情勢だけではなく、国内外の暗いニュースが日本での社会生活にも影を落とした年でした。来年度はコロナ禍の終焉を始め、色々なことが良い方向に向かって、明るいニュースが多い年になることを心から願っています。

さて、埼玉医科大学雑誌49巻2号をお届けします。

原著論文は、竹下英毅先生らが新しく導入されたロボット支援前立腺全摘除の経験を従来法である腹腔鏡下小切開前立腺全摘除との比較検討をまとめられた論文です。

また、令和4年12月に「脳オルガノイドが提起するもの」というミニシンポジウムが開催され、脳オルガノイド研究における倫理的側面についての活発な議論が行われました。その内容を村越隆之先生らがシンポジウム報告としてまとめました。さらに、令和4年11月に開催された第3回「オール埼玉医大研究の日」の開催報告を掲載しました。「オール埼玉医大研究の日」は村上孝先生をはじめ多くの先生方のご尽力により盛大に開催され、学部学生や大学院生といった若手の研究発表もあり、しっかりとした研究を行っている印象でした。参加された学生の声も掲載され、このイベントが学生たちの研究マインドを刺激していることを窺わせます。そのほか、学内グラント報告書として、2021年度丸木記念特別賞された池田正明先生の報告をはじめ、埼玉医大で行われている多様な研究の報告（20編）が掲載されています。今回、お休みしていた研究室紹介を再開しました。研究室紹介を通じて、研究者それぞれが抱えているジレンマが共同研究という形で解決され、研究成果につながる貢献ができればと考えています。

令和4年は埼玉医科大学創立50周年の記念すべき年でありました。大型の研究費である「埼玉医科大学創立50周年記念特別研究費」が4つのグループに授与され、それぞれの研究成果が埼玉医大における研究活動のさらなる発展に寄与するものと期待されます。受賞された先生方、おめでとうございます。

最後に、読者の皆さまの研究成果の投稿先として埼玉医科大学雑誌を考えて頂けたら幸いです。投稿をお待ちしています。
(海老原康博)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第49巻 第2号

編集責任者 海老原 康博

令和5年3月16日 印刷

令和5年3月31日 発行

発行所 埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030(直通) FAX 049(276)1860 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

製 作 レタープレス株式会社

広島市安佐北区上深川町809番地の5 電話(082)844-7500 <http://www.letterpress.co.jp/>